

受託研究 国立研究開発法人水産研究・教育機構 所蔵古文書の目録作成業務

期間：2018年10月11日～2019年3月15日（継続）

〔所員〕 安室 知

和歌山県湯浅町等の現地調査

越智 信也

2018年度は、以下の6つの資料群について、目録を作成するために、まずは基本作業として資料の写真撮影、概要整理を経て現地調査を行った。

表1 目録掲載予定の資料群

資料群名	採択時の所在地	点数（概算）
松宮百合子家文書	有田郡湯浅町	約350点
野原茂八家文書	有田郡広川町	4点
中川悦治家文書	日高郡由良町	5点
湊漁業協同組合文書	田辺市	8点
堅田漁業協同組合文書	白浜町	3点
中漁業協同組合文書	白浜町	19点

2019年3月9日（土）から11日（月）までの3日間で、今回は基本情報を収集するため、和歌山県立博物館を訪問し、次いでもっとも点数が多い松宮百合子家文書の概要調査を行うため、湯浅町を訪問した。



写真1 湯浅町での調査の様子

3月9日（土）、和歌山県立博物館を訪問し、上記対象資料群に関連する情報の収集、関連資料の閲覧および写真撮影を行い、博物館の坂本亮太学芸員、文書館の藤隆宏専門職員に、湯浅町等の自治体から依頼されて保管している資料について、これまでの経緯を伺い、資料の一部については写真撮影を行った。3月10日（日）に、湯浅町教育委員会を訪問、生涯学習課の山本隆重氏に、湯浅町の漁業・製網業について聞き取りを行うとともに、松宮百合子家文書

に関連する情報、特に現在の松宮家の状況について情報提供を受けた。松宮百合子家は、かつては湯浅町御蔵町に存在していたが、3年ほどまえ、家の解体に際して、文化財保護審議委員が立ち会って、持っていた資料について寄贈を受けたとのことであった。預かった資料を閲覧したが、中央水産研究所所蔵の松宮百合子家文書と関連する資料であることが分かった。漁網の製造・販売に関わって残された資料がほとんどであった。資料全体の写真撮影は他日に期するとして、概要をつかむうえで必要な写真のみ撮影した。これらの資料から、松宮家だけではなく、8件程度の漁網製造の家が湯浅町の御蔵町周辺にあり、同業者組織としての「網組」を形成していたことが分かった。

その後、湯浅町の御蔵町通り周辺を巡検し、漁網の積み出しに運河が使われていた様子も分かった。

3月11日（月）には、湯浅町の文化財保護審議委員の生田俊示氏と、湯浅町教育委員会でお会いし、3年前の松宮家解体の様子、その際の資料寄贈の経緯について伺った。松宮百合子氏とその他のご子孫のその後の状況について確認することができた。さらに、その場で漁網生産に関わる貴重な資料を閲覧することもできた。

その後、和歌山県地方法務局湯浅出張所を訪れ、御蔵町の漁網製造の家について、地理的な情報調査を行った。この地域の「網組」を形成している家が、昭和14（1939）年前後に、漁網製造業から離れた可能性があることも分かってきた。今後、資料目録の作成が進むにつれて、さらに湯浅町の漁網生産の状況が分かるものと思う。

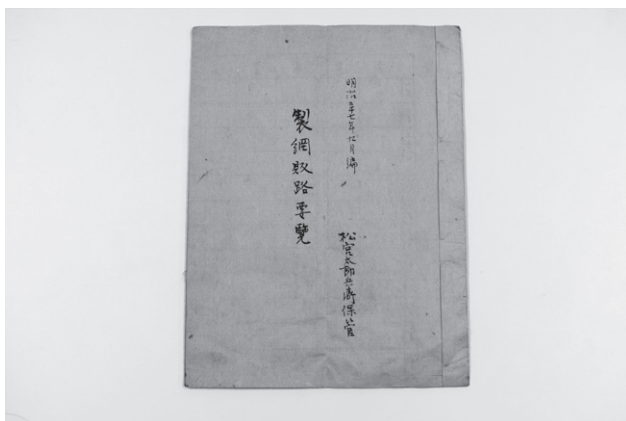


写真2 湯浅町に残されている松宮家の製網に関する資料



写真3 松宮家の近世期の資料



写真4 湯浅の御蔵町風景（伝統的建造物保存地区）

■ 2018年度の活動

- 「松宮百合子家文書」「野原茂八家文書」ほか資料調査 2019年3月9日～11日 和歌山県立博物館、湯浅町教育委員会、和歌山地方法務局湯浅出張所ほか 前田禎彦・越智信也・萬井良大、相原隆一